

平成 19 年度に実施した認証評価に関する検証結果報告書の概要 (高等専門学校)

認証評価の有効性や適切性について検証し、評価内容・方法等の改善に役立てることを目的に、平成 19 年度に実施した認証評価について、対象校及び評価担当者へのアンケートを実施。

【アンケート回収状況】

◇高等専門学校機関別認証評価

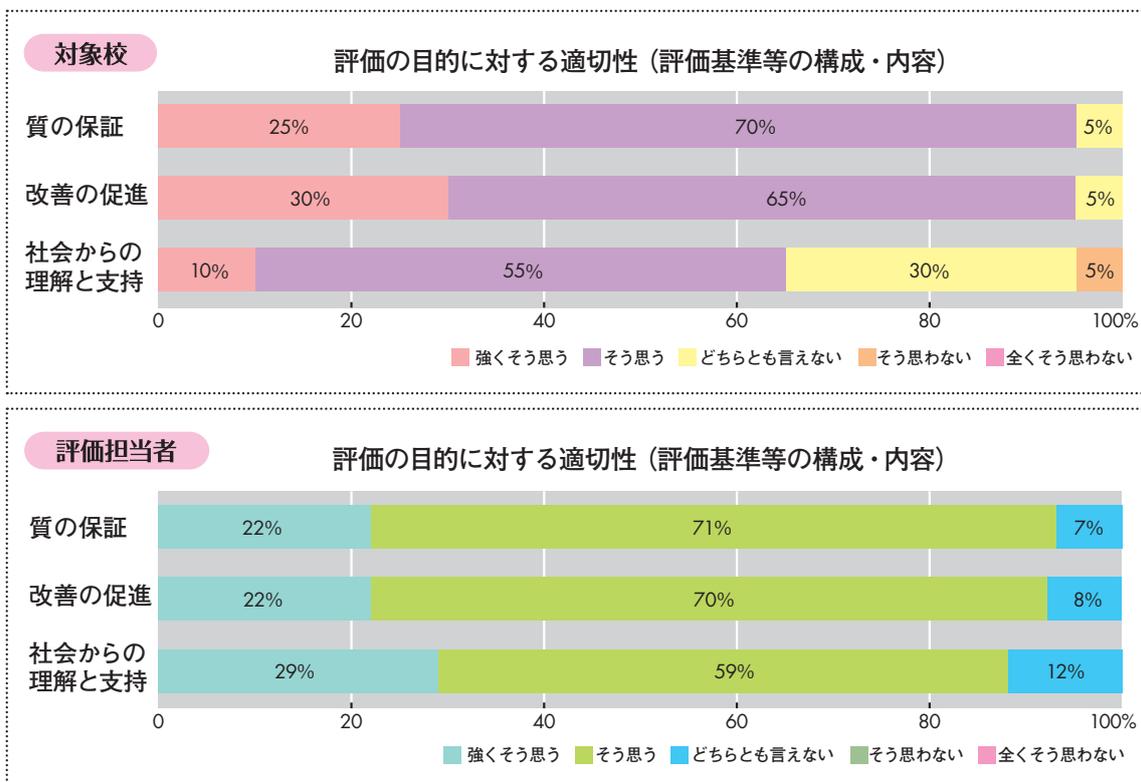
対象校 20 校すべてから回答

評価担当者（部会構成員）71 名中 59 名から回答（回収率 83%）

1. 検証結果の概要

■ 機構が定めた評価基準等について

評価基準等の構成・内容は、「質の保証」「改善の推進」「社会からの理解と支持」という評価の 3 つの目的に照らし概ね適切であり、教育活動を中心に設定していることも適切。ただし、対象校からの「社会からの理解と支持」については、どちらとも言えないとする回答も一定数あり、今後の検討の中で考慮が必要。

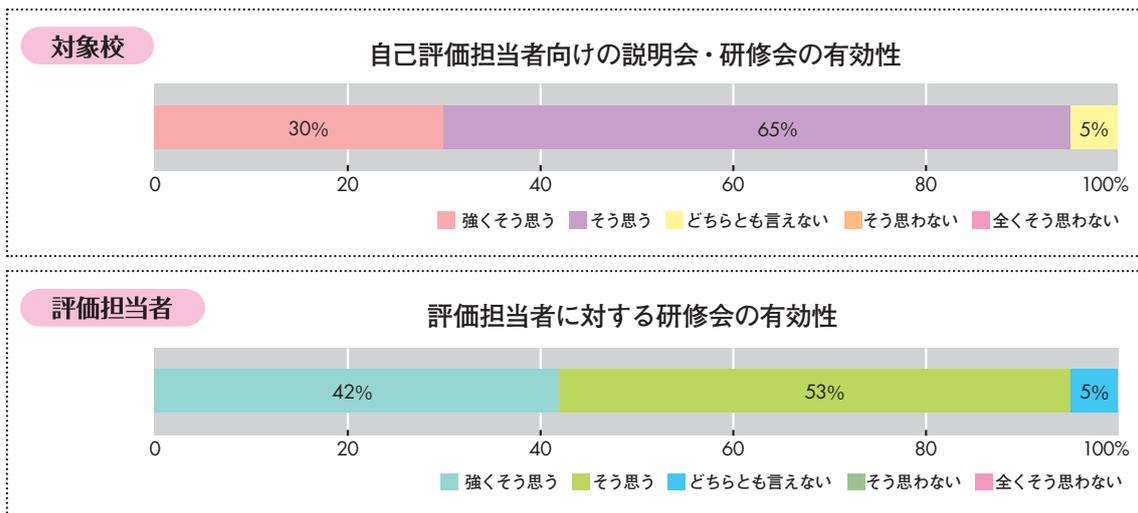


一方で対象校が自己評価しにくい、評価担当者が評価しにくい評価基準または観点があるとの指摘もあり、引き続きわかりやすい表現の工夫や、説明会等を通じた評価基準等の趣旨・ねらいについての説明を一層充実させていくことが望まれる。

説明会・研修会について

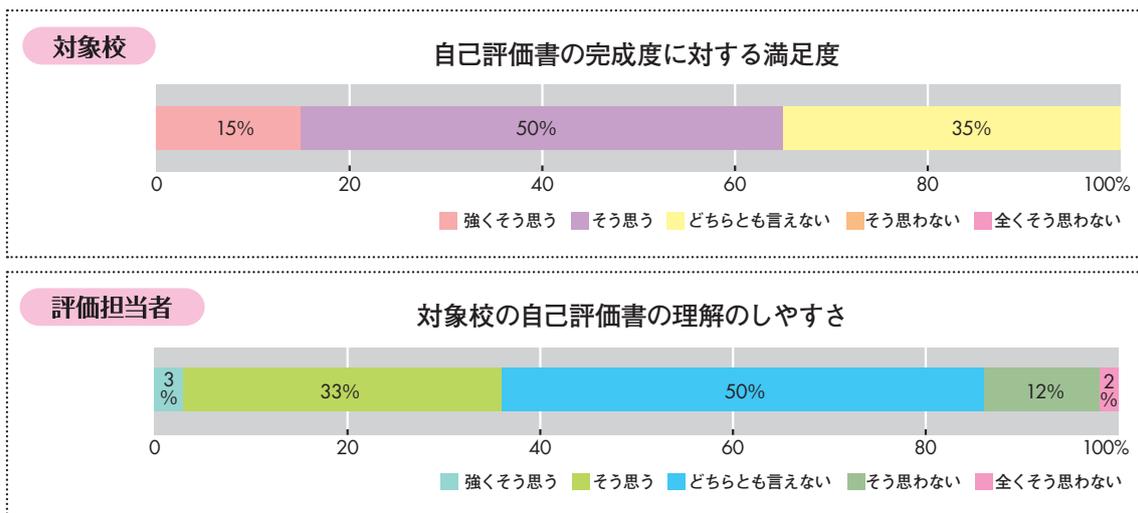
対象校に対する自己評価担当者向けの説明会・研修会及び評価担当者に対する研修会については、いずれも有効性が確認。

ただし、対象校からは研修内容における具体的な事例等の充実を求める意見が多く出されていることや、評価担当者からは評価経験の差に応じた研修内容の工夫を指摘する意見もあることから、引き続きこれらの面での充実を図っていくことが望まれる。



自己評価書について

対象校は自ら作成した自己評価書の完成度に概ね満足しているが、評価担当者からは、書面調査に当たって、どちらとも言えないとする回答が半数を占めていることから引き続き説明会・研修会等で自己評価書作成に当たっての留意点の説明内容を充実させるなどの配慮が望まれる。

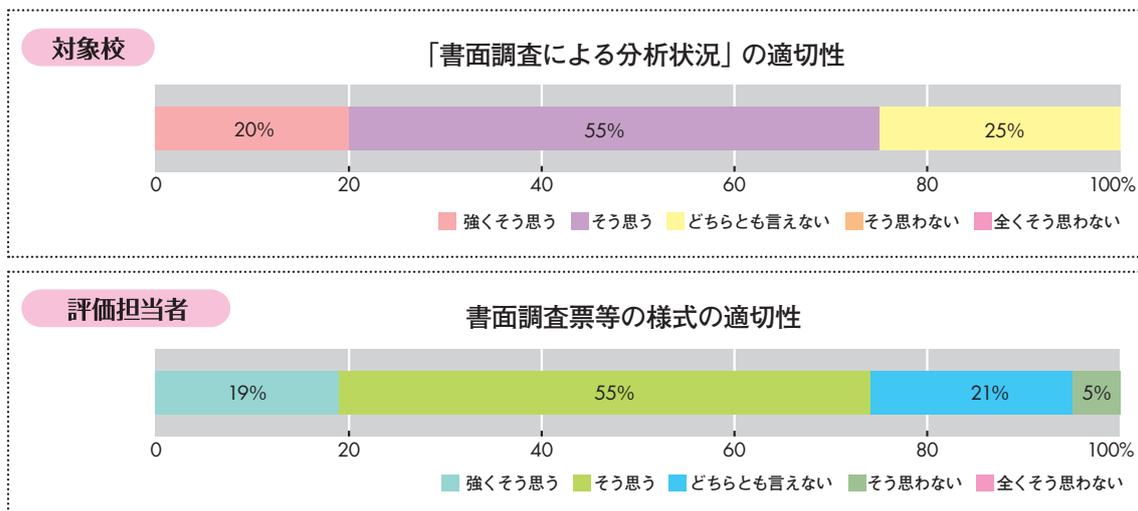


自己評価書の添付資料については、評価担当者・対象校ともに概ね適切であるとの評価。ただし、対象校からどのようなものを用意すべきか迷ったとする回答が一定数あることや、評価担当者からは必要な根拠資料の不備・不足等を指摘する意見もあり、引き続き、説明

会、研修会などを通じて、根拠資料・データの例示の充実、引用したデータの根拠資料の所在明示方法などについての説明内容の充実が望まれる。

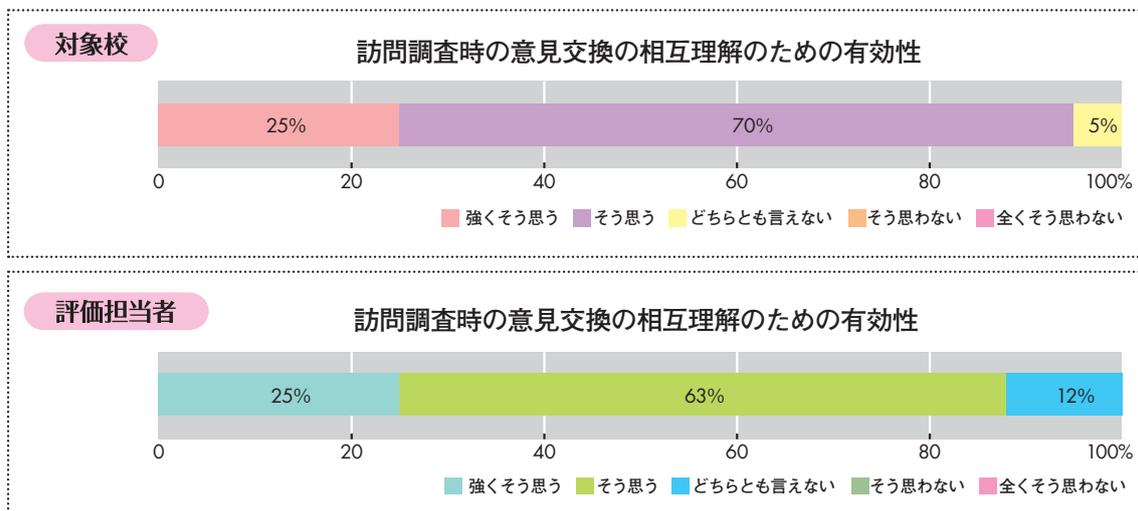
■ 書面調査・訪問調査について

書面調査については、適切であると回答。



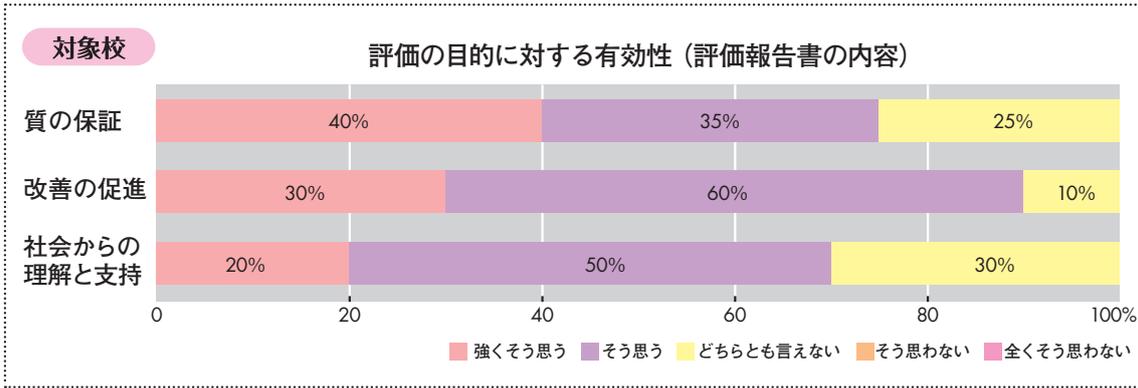
訪問調査についても、対象校・評価担当者ともに適切であるとの評価。特に意見交換を行うことによる相互理解を図る上で有効であると評価。

ただし、面接実施内容の工夫等を指摘する意見もあり、引き続き、より効果的な実施に向けての配慮が望まれる。

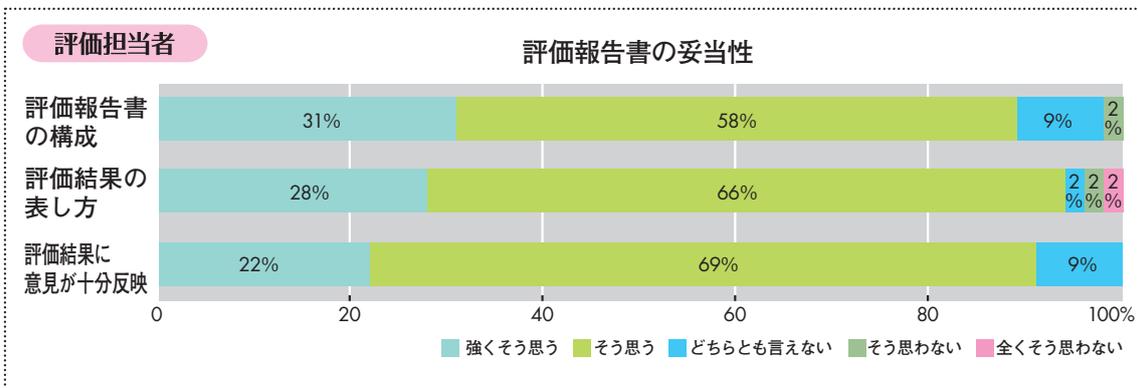


■ 評価報告書について

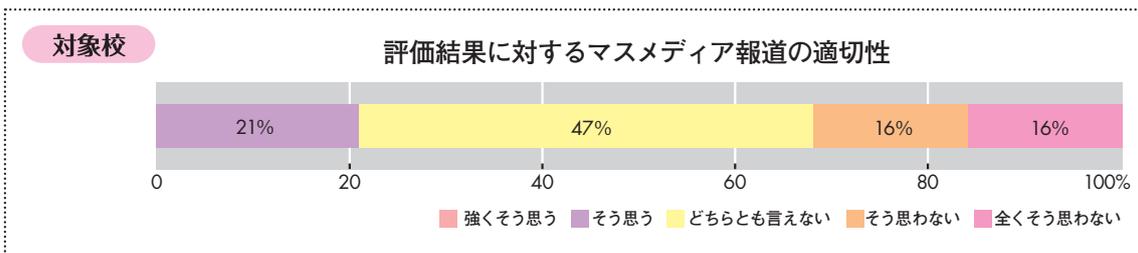
評価報告書の内容は、対象校において、「質の保証」「改善の推進」「社会からの理解と支持」という評価の3つの目的に照らし概ね適切であり、その実態等に照らしても適切であるとの回答。



一方、評価担当者は、評価報告書の構成、評価結果の表し方や自らの意見の評価報告書への反映について妥当であると回答。

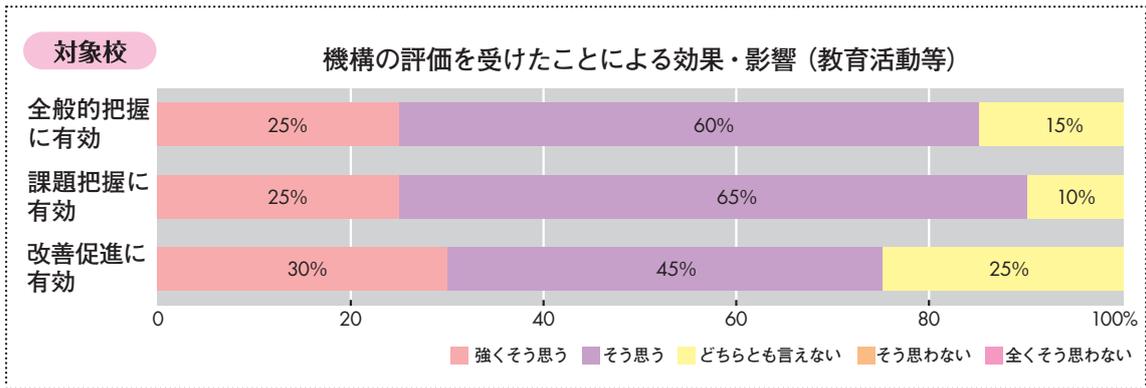


なお、評価結果を受けてのマスメディア等の報道の適切性は、対象校の回答においてどちらとも言えないとする回答が多く適切か否かの判断は明確ではないため、引き続き評価報告書の内容が理解され、支持が得られるような工夫について検討していくことが望まれる。

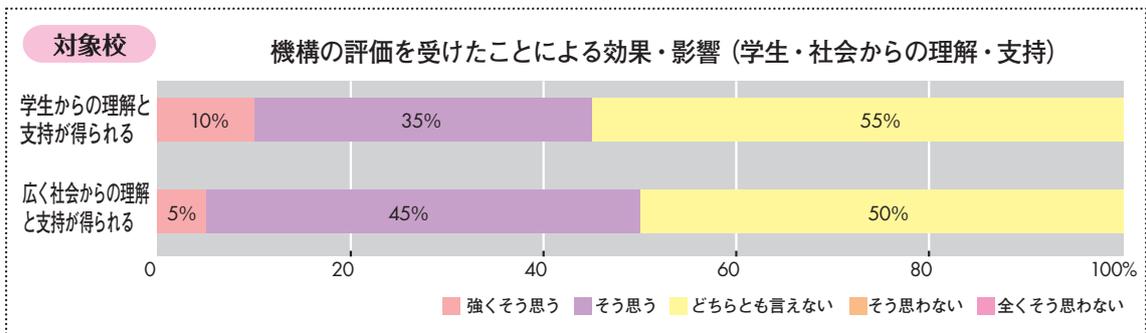


評価を受けたことによる効果・影響について

自己評価の実施や機構の評価を受けたことにより、教育研究活動等の状況や課題の把握に役立つとともに、教育研究活動等の改善の促進につながるものとしてその効果・影響を高く評価。



ただし、学生または広く社会からの理解・支持が得られたかどうかについては必ずしも十分な効果・影響があるとはしておらず、引き続き認証評価制度や機構の行う評価への社会の認知度を高めていくことが必要。

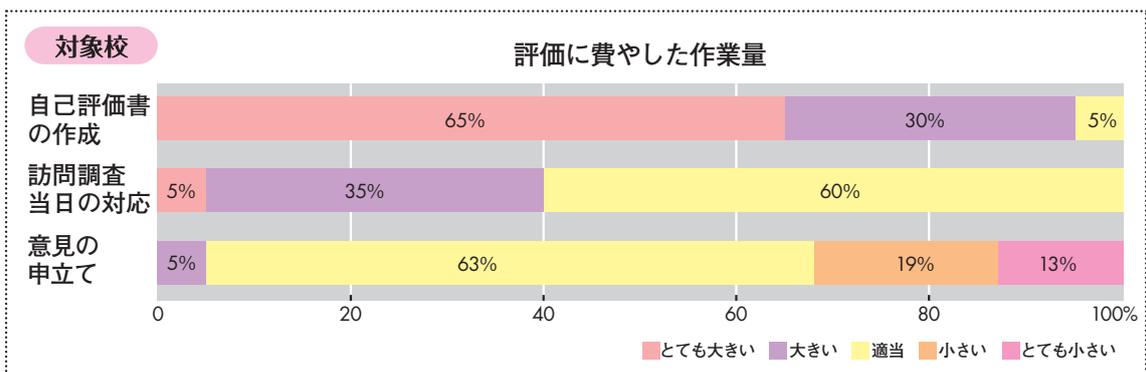


また、教育研究活動等を組織的に行うことの重要性の教職員への浸透や各教員の教育研究への取組の意識向上への効果・影響については、どちらとも言えないとする回答も一定数あり、各対象校での今後の取組に期待。

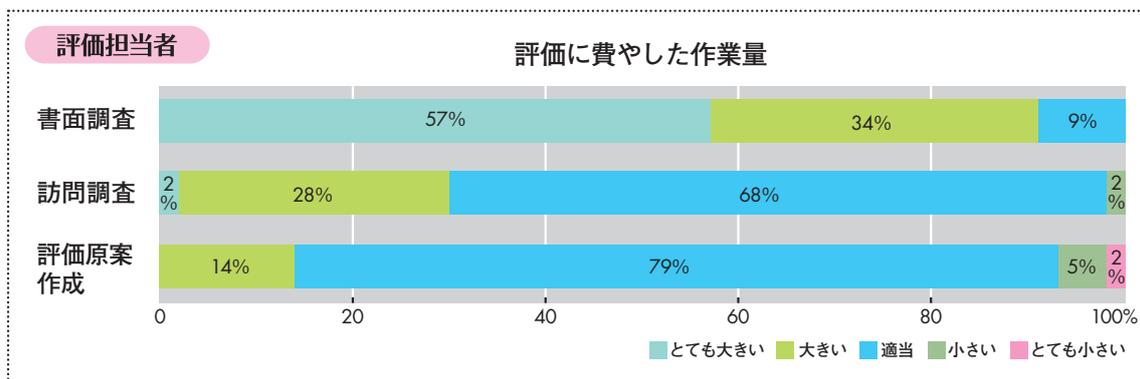
自己評価結果及び機構の評価結果を踏まえた改善・向上への取組も各対象校で着実に
行われており、今後の効果・影響に期待。（具体の改善事例は別紙1のとおり）

■ 評価の作業量等について

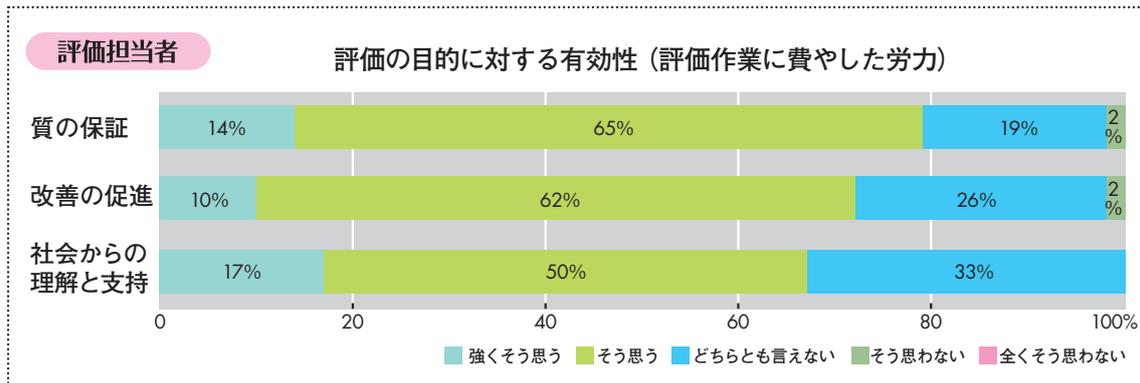
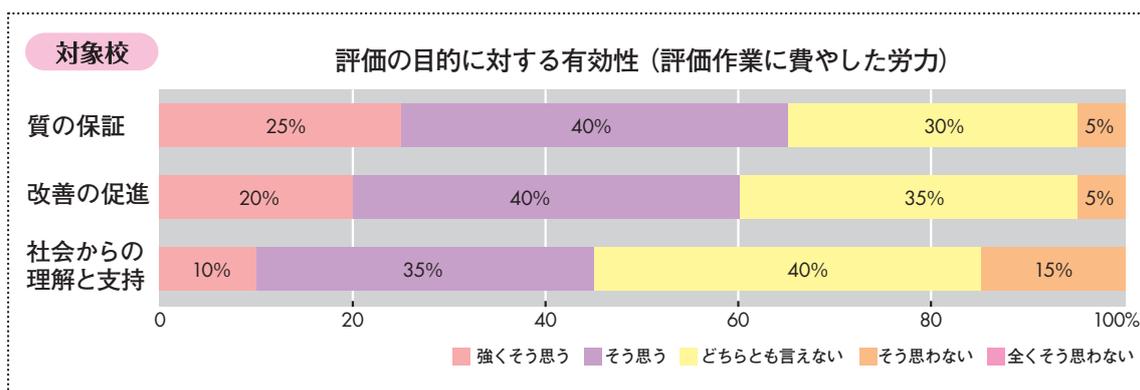
対象校は、自己評価書の作成に係る作業量が大いと感じており、引き続き自己評価実施要項の改善や説明会、研修会での自己評価書作成の理解を深めるための工夫が望まれる。



評価担当者は、自己評価書の書面調査の作業量が大いと感じており、引き続き評価担当者の作業量軽減のための工夫が望まれる。



評価作業の負担は大きいとしているが、その作業に費やした労力は、評価の目的（「質の保証」「改善の推進」「社会からの理解と支持」）に概ね見合うものであると回答。ただし、対象校における「社会からの理解と支持」については、どちらとも言えないとする回答も一定数あり、今後の検討の中で考慮が必要。



2. 全体的な評価・課題等

全体として、機構の認証評価の目的等に照らして成果があがっていることが確認。

一方で、対象校・評価担当者ともに評価を通じた改善への取組への意識向上や評価の目的に対する妥当性の認識が浸透しつつあることが窺えるものの、引き続きより効果的・効率的な作業が行えるよう工夫をしていくことが望まれる。

また、認証評価制度等に対する認知度をより高め、社会からの理解・支持を得るためにも、評価プロセスにおける改善だけでなく、評価結果の公表方法などを総合的に検討していくことが望まれる。

なお 20 年度以降、機構として既に改善等を図っている事項の例は別紙 2 のとおり。

認証評価結果を受けた対象校の改善取組の例 (代表的なものを抽出)

- 教務委員会、専攻科委員会が中心となって、準学士課程の学生への各学科の教育目標及び専攻科課程の学生への各専攻の教育目標の周知をガイダンス等で行うこととした。
- 準学士課程の「卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力」を、専攻科課程の「修了時に身に付けるべき学力や資質・能力」と明確に区別できるように改定し、その周知徹底を図ることとした。
- 学校要覧、学生便覧等に記載の準学士課程の教育目標については、順次統一した表記へと改めることとした。
- すべての教室に教育目標を記載したパネルを掲示して、認知度を向上させる取り組みを行い、その結果を「アンケート」により確認する予定。
- 学生募集要項及びウェブサイトに入学者選抜の基本方針を明記した。
- 年度当初に各学年の指導目標を定めた上で、ホームルーム指導案を作成し、年度末にホームルーム実施記録を提出することとした。
- 従来の学年別教育課程表に記載されていた「必修得科目」の表現を削除し、すべて「必修科目」の表記とした。また、これに合わせて教育課程の体系性と科目系統の図も修正し、教育課程との整合性を図った。
- 海外の工科大系高等教育機関との単位互換協定を行うための活動中。また、学生の相互訪問、英語研修などを通じ交流を深めている。
- 卒業時及び修了時の学生に、学力等の達成度に関するアンケート調査を実施する予定。
- 「学生の就学支援に関する要項」を制定し、支援体制を整備した。
- 図書館用テーブル・椅子および閲覧用書架を購入し、雑誌書架も閲覧室に移動するなど自習環境の整備を行った。
- 学内に「国際交流推進室」を設置して、「英語能力」「国際感覚」について組織的取り組みが不足している問題に関する対策を検討することとした。
- 証拠の保管のあり方の検討。特に各教員が保管しているデータの収集方法の改善を図ることとした。
- 教育目標に対する一般・専門科目の配置をシラバスへ掲載した。
- 在校生に対する学習達成度について、各学科で従前から対応している方法で収集し、モデル案を作成するよう教務委員会で検討することとした。
- 自己点検・評価結果を、更なる改善につなげるよう、PDCAサイクルによりフィードバックするシステムについて、校長、副校長で検討することとした。
- 認証評価に関する資料のデータベース化を検討中。
- 平成20年度からキャリア支援室を設置。キャリア支援室を中心に組織的な学生支援を進めることとした。
- 学生相談室等で、学生相談箱の利用方法を広い意味で利用できるように検討することとした。
- 図書館、情報センターの利用時間の周知について、図書館情報センターで検討することとした。
- 積極的な取り組み内容を広報する意味で、取り組み内容を自己評価書にデータとして確認できるよう今後、評価・改善委員会で検討することとした。

- 平成 20 年度のシラバスに全科目最初の講義でシラバスによるガイダンスを行うことを明記することとした。
- 実験書に周囲の学生も保護めがね着用を義務付けるように指導内容を変更するなど、安全面での改善を実施した。
- 学校全体として体系化して、創造性教育をつくりあげるための方策について、教務委員会等で検討を予定。
- 英語力向上について積極的な取組を教務委員会での検討を予定。
- 安全衛生教育の取組について、安全衛生委員会を中心に、全部署で再点検等を実施することとした。
- 編入生のケア、英語力強化 (e-L 教室活用) について教務委員会で検討することとした。
- 語学、一般知識の補完を全体としてどう組み立てていくか、教育体系の再編、高専全体がどうしたらよいか、今後、教務委員会、専攻科委員会で検討することとした。

認証評価の改善・充実のための機構の取組例

評価基準等関係

- 自己評価しにくい等の意見のあった観点等について、認証評価説明会、自己評価担当者等に対する研修会（平成20年度実施分）や訪問説明時の機会を利用して、観点の趣旨やねらいについて詳細な説明を行い、さらには書面調査及び訪問調査等の実施過程等においても評価の実施に支障が生じないように適切に対応した。

研修・説明会関係

〔評価担当者に対する研修会〕

- 評価担当者からの意見を踏まえ、研修の中で実施するシミュレーションに、「判断保留」とした事例のほか、「一般的に期待される水準である」との判断を行った事例を加えるなど内容の改善を図った。
- 評価担当者からの意見を踏まえ、再任された委員は、2日間の研修日程のうち、1日目の参加のみで終了可能なように改善を図ることとした。

〔説明会・自己評価担当者等に対する研修会〕

- 自己評価担当者等に対する研修会については、従来、認証評価の申請を受け付けた後の11月に実施していたが、早い時期から自己評価の方法等についてより詳細に理解を深めてもらえるよう、認証評価説明会終了後（5月）にも開催することとした。

書面調査・訪問調査関係

- 従来、訪問調査については、1日目の昼から3日目の昼までの3日間の日程で行っていたが、対象校等からの意見を踏まえ、負担軽減の観点から、調査項目の変更なしに2日間の日程に見直しを行うこととした。
- 各委員の主担当校2校に対して、書面調査については所属する部会の対象校6校すべてを担当することとなっていたものを、各委員の負担を考慮して、書面調査の担当校についても主担当校2校のみとした。